

提案者名: 株式会社ラスコジャパン 営業本部 関口 隼紀  
 問い合わせ先: 045-534-6814 メールアドレス: sekiguchi@lasco.jp

(それぞれどちらかに○)  
 販売している技術 **実証中の技術**  
 温室トータル技術 **個別要素技術**

提案事項: 農地等の軟弱地盤で、人力施工が可能な 耐候型 簡易基礎工法

「BGF(ベースグラウンドファウンデーション)工法)」 対候性ハウスの基礎工事コストを低減

ピンを打込むだけ 簡単施工!

# 基礎は新時代へ

在来工法から新しい基礎工法に変化する

2 Φ48.6 ピンを電動工具で地中に打込みます。  
 1 基礎位置を少し掘削し、BGFを置きます。  
 3 基礎が見えないよう埋戻します。

BGF工法の施工手順

低コスト対候性ハウスの基礎に適用可能。  
 耐風圧50m/s、耐雪荷重50kg/m<sup>2</sup>以上でも、斜交杭の強い支持力でハウスを支える。  
 許容耐力は押込荷重約2トン。引抜荷重約1トン。

期待される効果

在来工法 (布基礎)

10a当たりの基礎部材・工事費 現状 182万円

【従来のコンクリート基礎の場合】

- ・設置に重機(掘削・運搬)が必要。
- ・コンクリートの養生で工期がかかる。
- ・現況復旧にもコストがかかる。
- ・軟弱地盤では基礎が大きくなる。

PRICE DOWN

BGF工法

10a当たりの基礎部材・工事費 目標 127万円

【BGF工法の場合】

- ※基礎設置は**人力施工**。重機は不要。簡単設置で**工期短縮**。
- ※すぐに現況復旧が可能。
- ※**軟弱地盤**に強い支持力を発揮。

基礎の設置コストを30%減 目標 127万円



## 【BGF工法が効果を発揮する条件】

- ・ 風速50m/sの台風等の気象災害対策
- ・ N値が5以下の軟弱地盤  
(※N値15以上の硬い地盤や転石や礫等で構成される地盤では施工困難。)
- ・ 重機が進入できない環境
- ・ 将来、現況復旧する環境
- ・ 工期を短縮し、ハウスを設置したい時  
(※BGF工法は大規模ハウスへの適用も可能。)

## 耐候性ハウスの基礎の施工性比較



在来工法（布基礎）

- ①地面を重機で掘削する。
- ②根切り底を転圧する。
- ③碎石を敷き込む。
- ④型枠を設置する。
- ⑤コンクリートを打設する。
- ⑥コンクリートの養生（硬化）。
- ⑦型枠をはずす。



BGF工法

- ① 所定の位置にBGFを置く。
  - ② 4本のピンを土中に打込む。
- BGF工法を使うと、従来の基礎工事で必要な工程を省け、工期短縮が可能。基礎の設置コストを低減することができる。

## 【BGF工法の施工手順】

### ① 基礎の設置



### ② ピン(パイプ)の打込み



人力施工、掘削・型枠・転圧工事不要、コンクリート基礎の養生期間不要で、工事費削減。

従来のコンクリート基礎に対し基礎設置コスト 目標 30%減